

2024年2月期 第3四半期決算

イオン株式会社

2024年1月12日

- ・(3Q) 営業収益、段階利益は想定水準を確保
- ・(3Q累計) 営業収益、営業利益、経常利益が過去最高を更新、親会社株主に帰属する四半期純利益は200億円を超える改善で5期ぶりの黒字化

連結業績

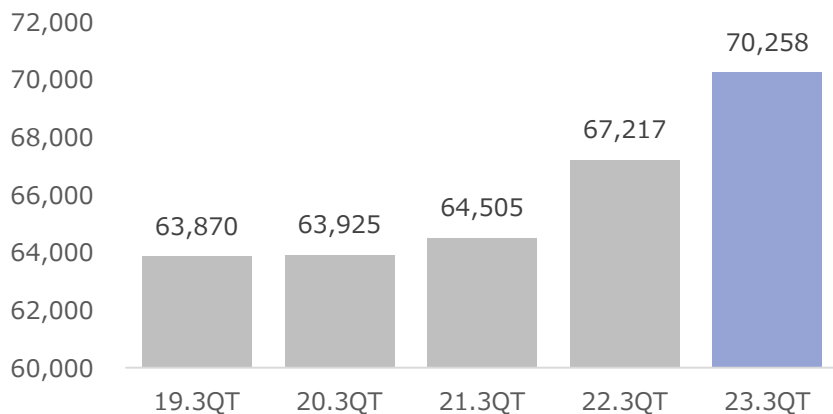
(億円,%)

	3Q(3カ月)		3Q累計(9カ月)		
	当期実績	前年 同期比・差	当期実績	前年実績	前年 同期比・差
営業収益	23,145	+3.6%	70,258	67,217	+4.5%
営業利益	251	+83	1,428	1,126	+301
経常利益	212	+89	1,331	1,075	+255
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-49	+167	183	-36	+220

・営業収益、全ての段階利益で順調に進捗

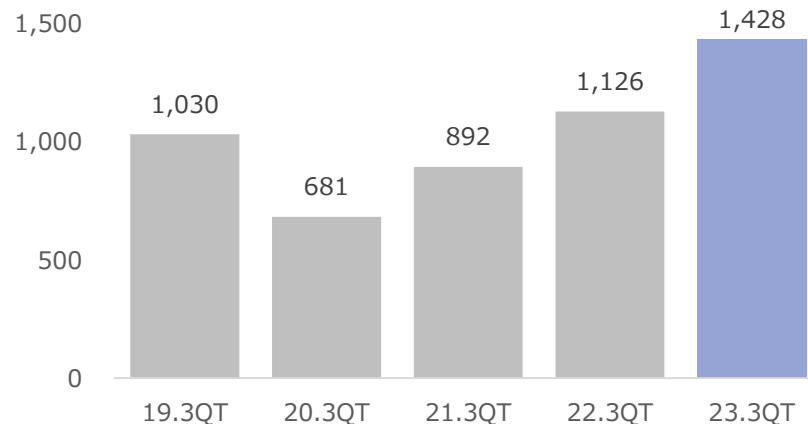
営業収益

(億円)



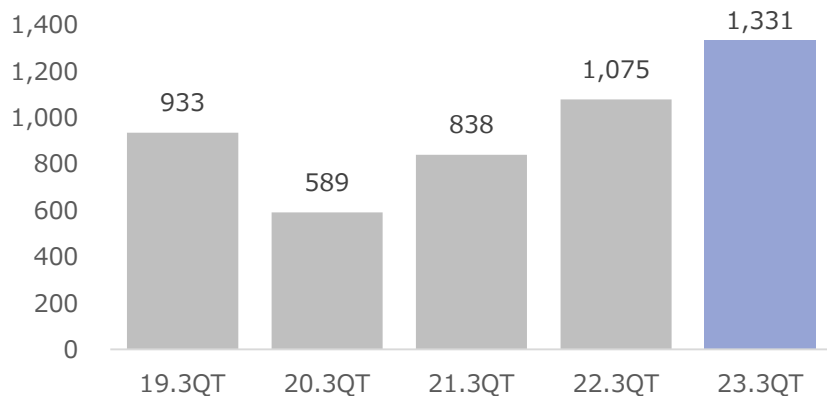
営業利益

(億円)



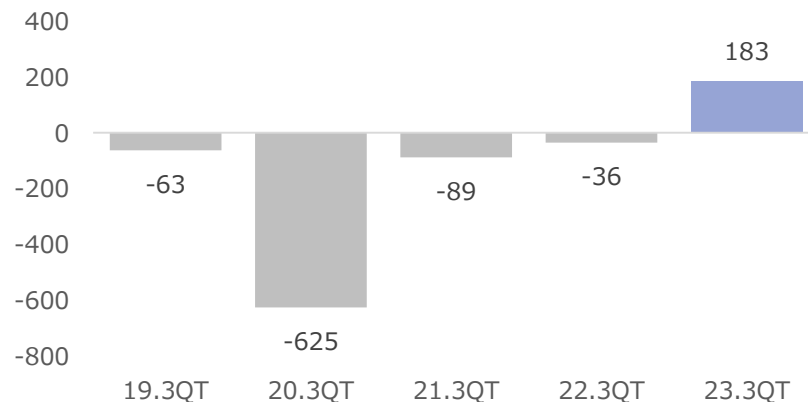
経常利益

(億円)



親会社株主に帰属する四半期純利益

(億円)



※ グラフの年表示は事業年度、23.3QTは2023年度第3四半期累計、23.3Qは2023年度第3四半期の略。
以下同様

セグメント別業績 (3Q累計)



営業収益：報告セグメントの全事業が増収

営業利益：小売事業で300億円を超える損益改善※

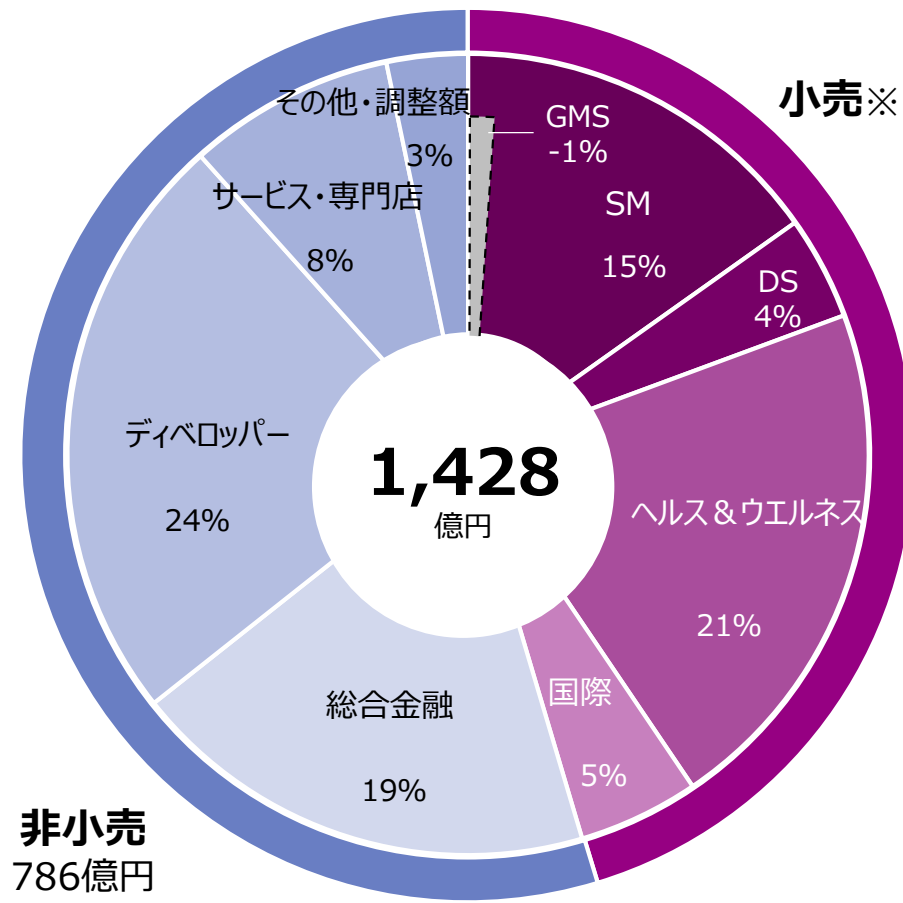
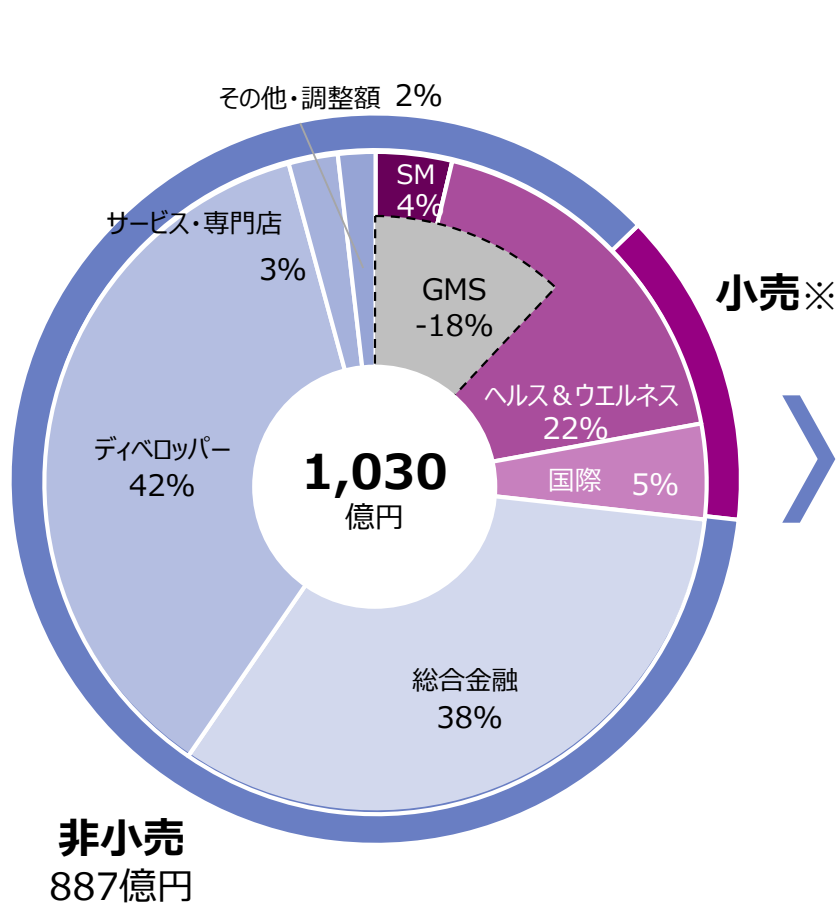
セグメント別業績

(億円,%)

		営業収益		営業利益	
		実績	前年同期比	実績	前年同期差
報告 セグ メン ト	GMS事業	24,901	+4.1%	-12	+135
	SM事業	20,261	+3.4%	218	+144
	DS事業	2,997	+4.9%	60	+48
	ヘルス&ウェルネス事業	9,145	+7.6%	304	-4
	総合金融事業	3,551	+6.6%	272	-147
	ディベロッパー事業	3,472	+5.8%	345	+12
	サービス・専門店事業	5,935	+4.7%	120	+60
	国際事業	3,803	+2.7%	70	-18
その他		431	+11.2%	-69	-56
調整額		-4,242	-	116	+128
連結合計		70,258	+4.5%	1,428	+301

※ 小売事業：GMS事業、SM事業、DS事業、ヘルス&ウェルネス事業、国際事業

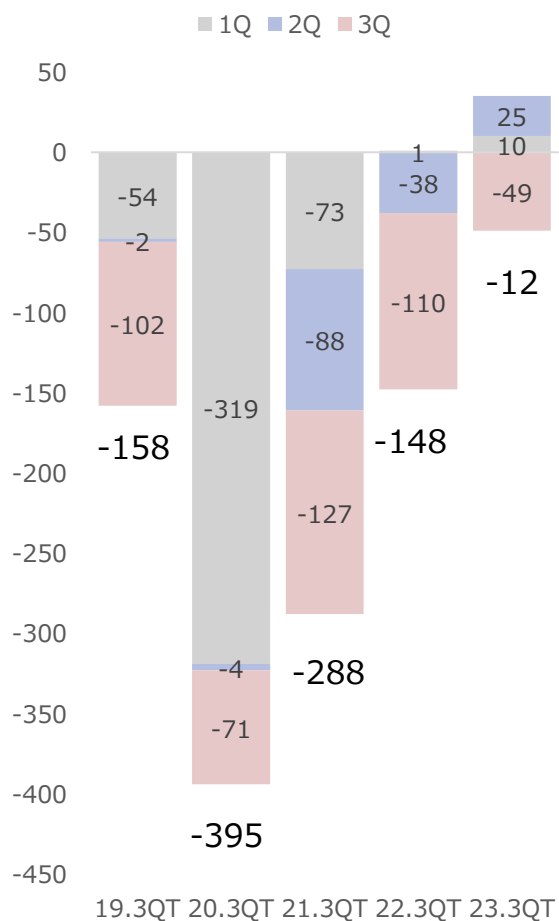
営業利益ポートフォリオの変化（3Q累計）



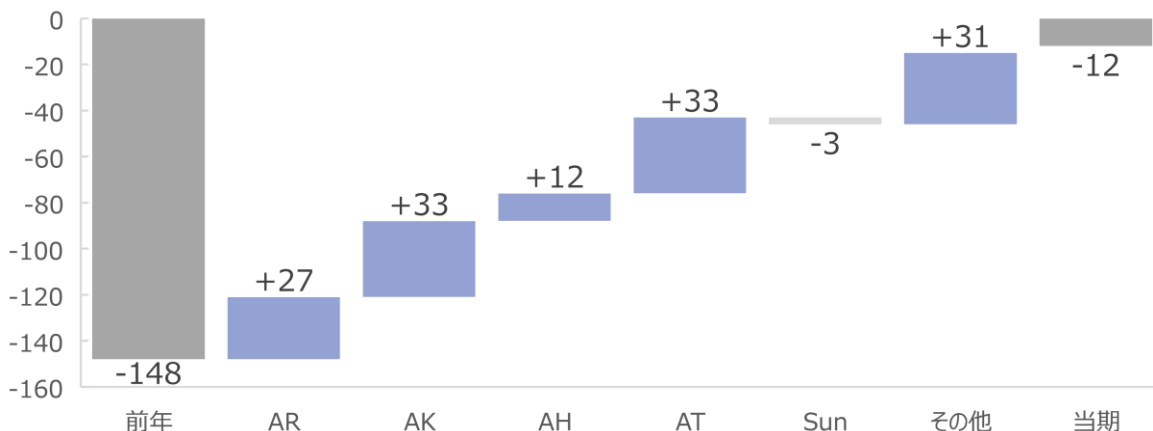
セグメント別実績の概況（3Q累計）

- ・衣料・食品・H&BCの荒利率向上やDX推進等による業務効率化で、営業利益率が改善
- ・イオン九州は統合シナジーを発揮し、営業収益、各段階利益ともに過去最高を更新

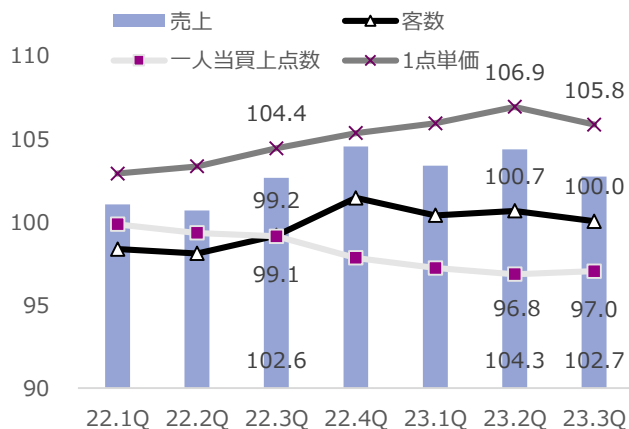
セグメント利益 ※1 (億円)



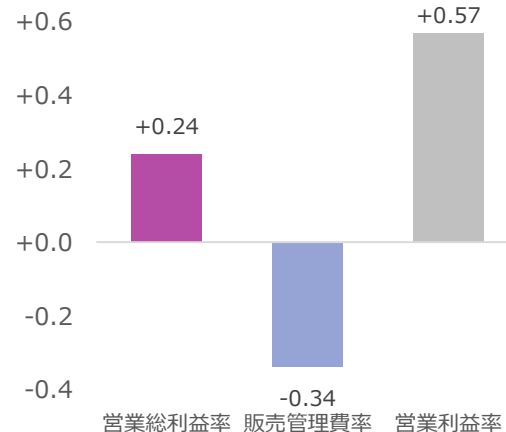
営業利益増減 ※2 ※3 (億円)



既存店売上前年同期比 (%)

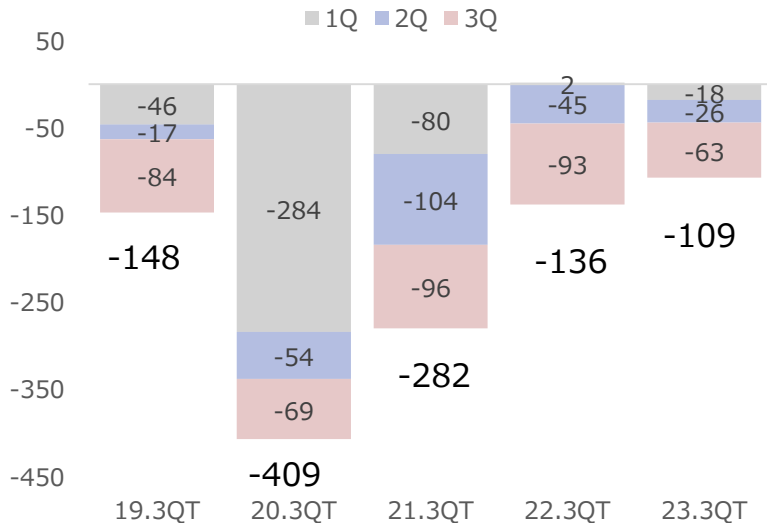


段階利益率・販管费率前年差 (%pt)

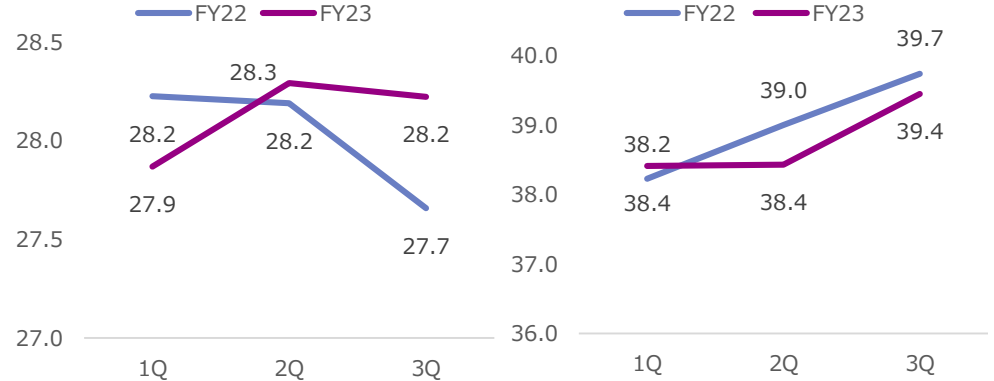


- ・コスト上昇に耐える経営基盤の構築に向け成果、27億円の損益改善
- ・DXによる生産性改善と店舗・本社の販管費削減で売上総利益率、販管費率は改善

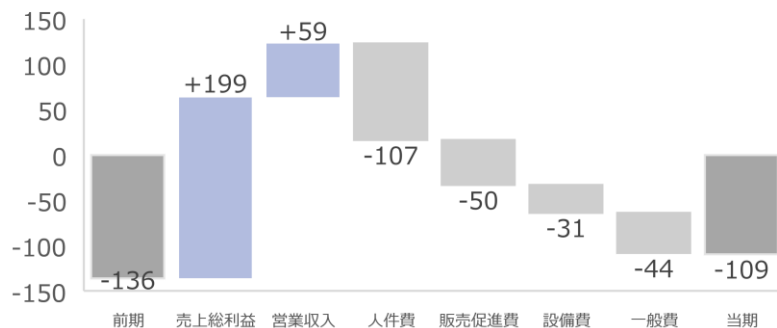
営業損益推移 (億円)



売上総利益率(左)・売上販売管理費率(右)推移 (%)



営業損益増減要因 (億円)



中計・構造改革の進捗、コスト上昇の影響 ※1

トップバリュ売上 前年同期比	108.4% 3Q 108.2%	人時生産性 前年同期比	106.3% 3Q 106.1%
在庫 ※2	1,314億円 前年同期末差+117億円	賃上影響 前年同期差	+87億円 3Q+34億円
テナント家賃収入 前年同期差	+22億円 3Q +5億円	水光熱費 前年同期差	▲6億円 3Q▲20億円
EC事業売上 前年同期比	110.5%	AIオーダー	357店舗
ネットスーパー	258店舗	AIカメラ (アイテンド)	77店舗
セミセルフレジ	353店舗	AIカカク	デリカ 353店舗 デイリー 328店舗
レジゴー	189店舗	MaIボード ※3	323店舗

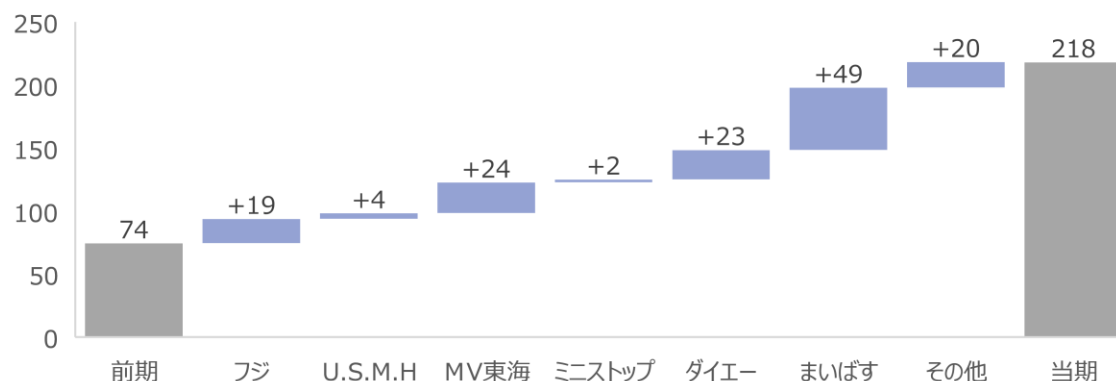
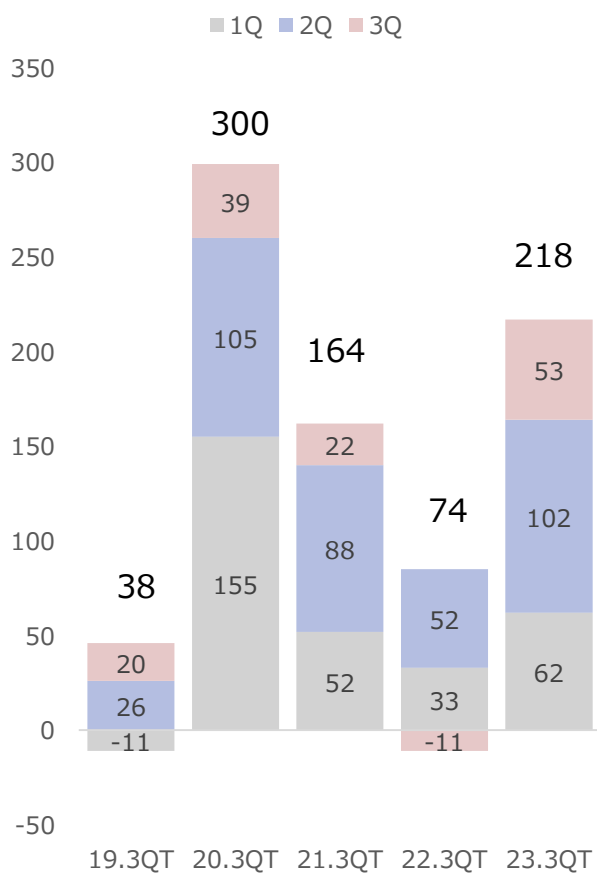
- ・DXによる店舗オペレーションの効率化と水光熱費の削減で大幅な増益
- ・トップバリュの価格優位性を活かした集客が奏功するまいばすけっとがけん引
- ・いなげやを連結子会社化し首都圏のドミナント強化

セグメント利益 ※1 (億円)

(億円)

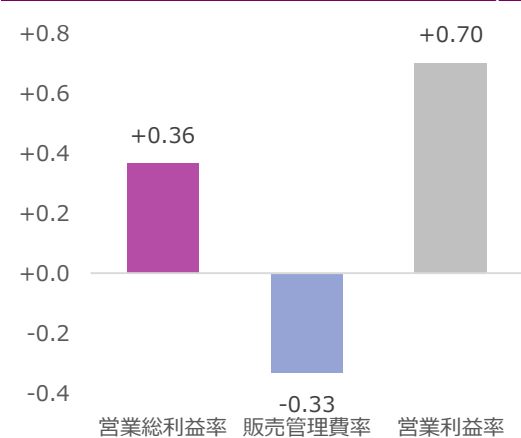
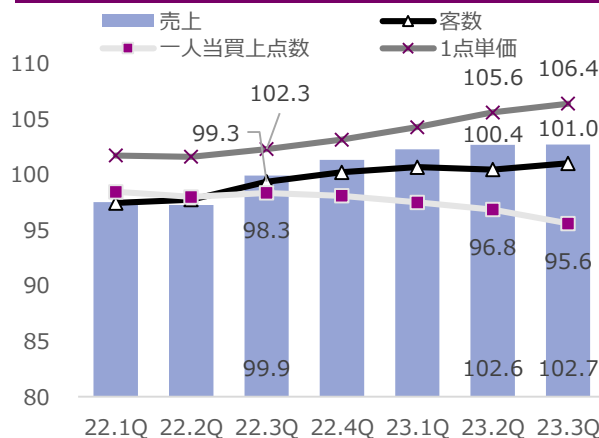
営業利益増減 ※2 (億円)

(億円)



既存店売上前年同期比 ※3 (%)

段階利益率・販管费率前年差 (%pt)

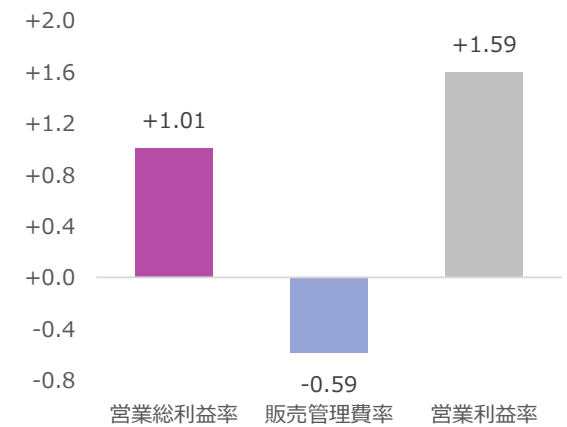
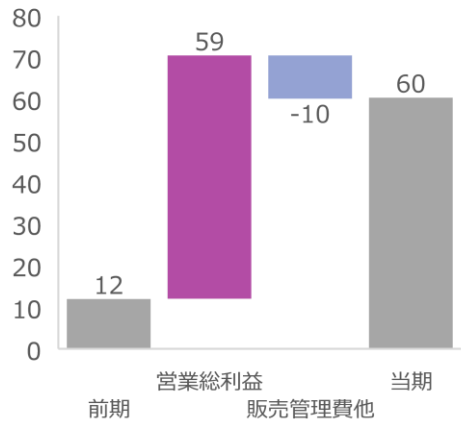
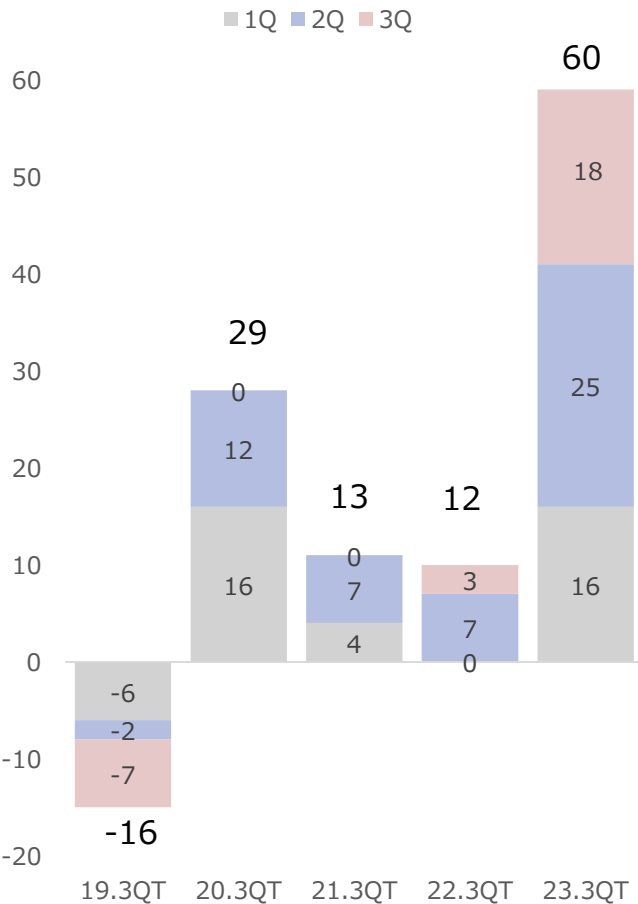


DS(ディスカウントストア)事業

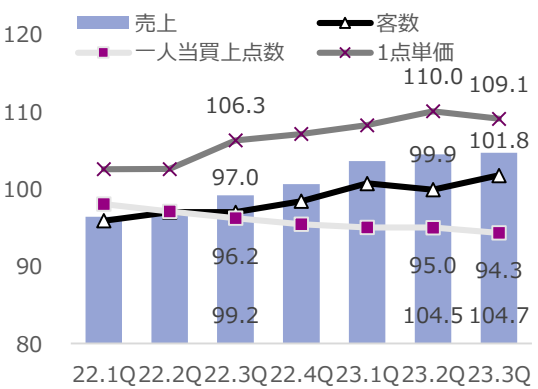


- ・DS専用PBの拡販で利益率上昇、マテハンやDXによる業務効率化で大幅な増益
- ・イオンビッグは2024年3月にマックスバリュ南東北と合併予定
- ・ローコストオペレーションを確立した本格的なDSフォーマットの構築を目指す

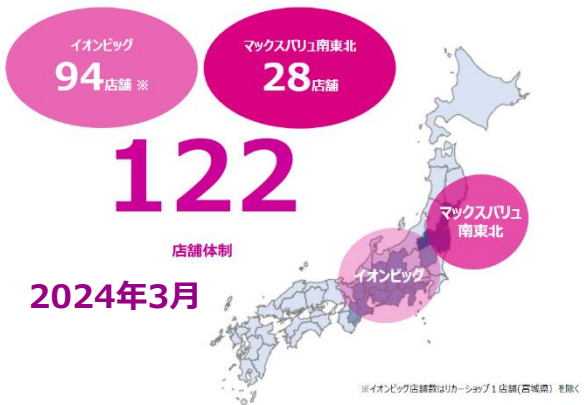
セグメント利益 ※ (億円) 営業利益増減要因 (億円) 段階利益・販管費率前年差 (%pt)



既存店売上前年同期比 (%)

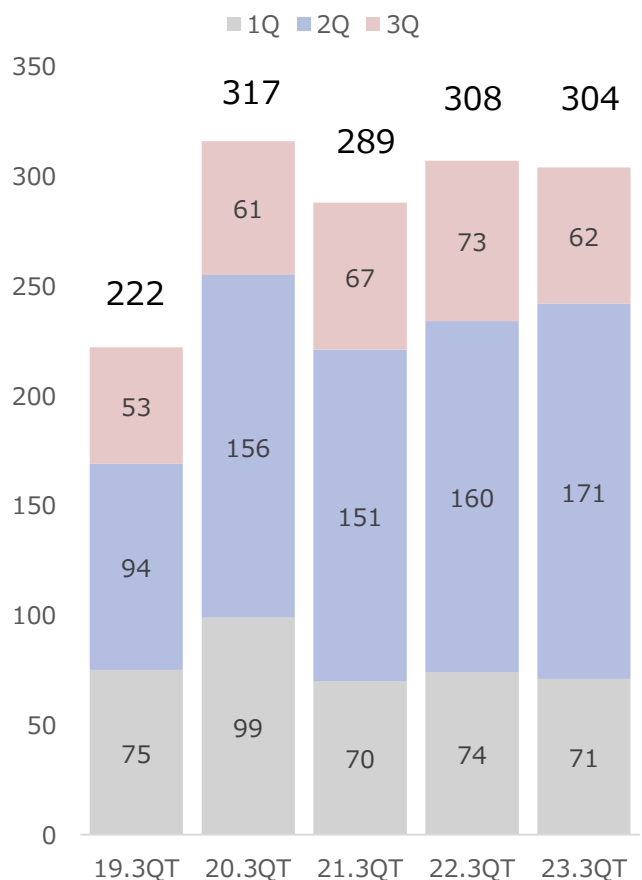


イオンビッグ・MV南東北経営統合

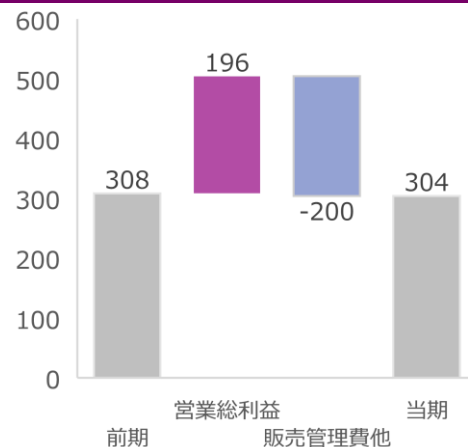


- ・検査キットなどコロナ関連需要の反動減の影響あり
- ・販売管理費の増加は想定内にコントロールも、営業総利益が想定に届かず

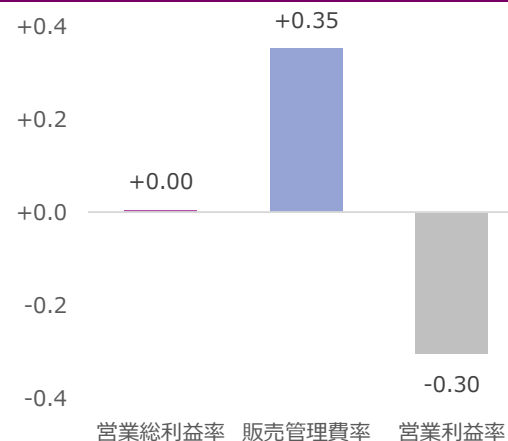
セグメント利益 (億円)



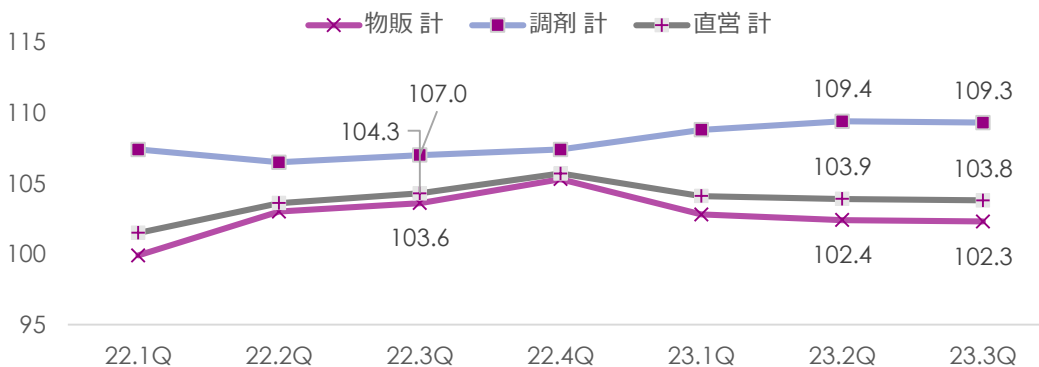
営業利益増減要因 (億円)



段階利益率・販管費率前年差 (%pt)

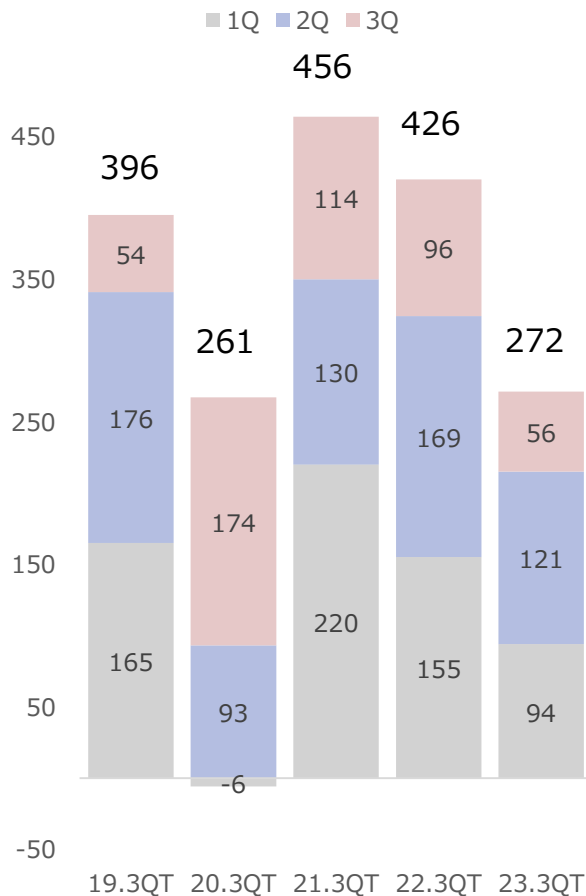


ウエルシアHD 既存店前年同期比 (%)



- ・国内・海外で貸倒関連費用や上期顧客基盤拡充費用の増加により減益
- ・個人向けローンを提供するベトナムの現地企業の完全子会社化や、マレーシアにおけるデジタルバンクの来年度開業など、新規事業による業容拡大と収益力の強化に向けて金融包摂の取り組みを加速

セグメント利益 (億円)



イオンフィナンシャルサービス 国内・海外の営業利益 (億円)

	3Q (前年同期差)	3Q累計 (前年同期差)	要因
国内	-21 (▲17)	-5 (▲100)	債権残高拡大による貸倒関連費用や顧客基盤拡充に向けた費用増加で減益
海外	80 (▲20)	264 (▲54)	貸倒関連費用が増加するも、トップラインは順調に拡大

イオンフィナンシャルサービス 海外エリア別業績 ※1 (億円)

		中華圏	前年 同期比	メコン圏	前年 同期比	マレー圏	前年 同期比
		営業利益	3Q	20	128%	33	61%
	3Q累計	63	126%	101	68%	99	84%
貸倒関連費用	3Q	18	204%	79	108%	64	133%
	3Q累計	47	201%	245	122%	159	146%

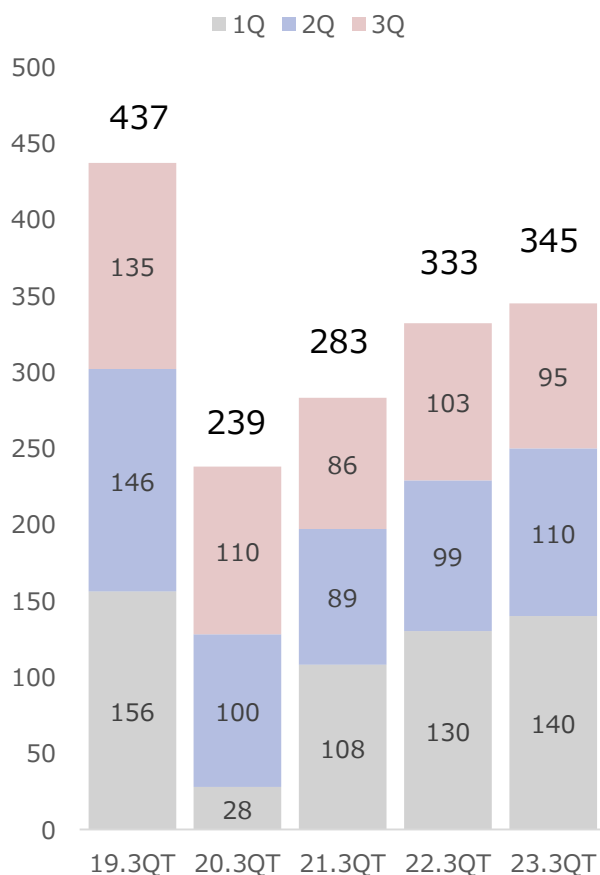
各種取扱高、営業債権残高状況 (億円)

		取扱高	前年同期比	営業 債権残高	期首差
国内	ショッピング	52,571	109%	(※2)13,411	+1,437
	キャッシング	2,859	112%	4,158	+205
海外	ショッピング	3,159	120%	1,524	+166
	キャッシング	1,094	107%	1,497	+181

- ・国内はモール、都市型SCともに専門店売上が前年同期比プラスで推移し増収増益
- ・中国は江蘇省、湖北省が好調に推移、前年の特別損失の影響を除くと実質16億円の増益
- ・アセアンは最重点エリアのベトナムや行動規制が緩和されたインドネシアが増益

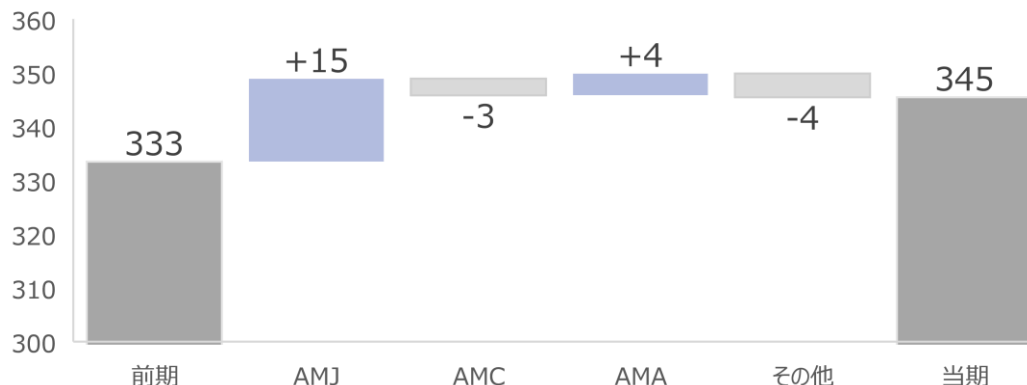
セグメント利益

(億円)



営業利益増減 ※1

(億円)



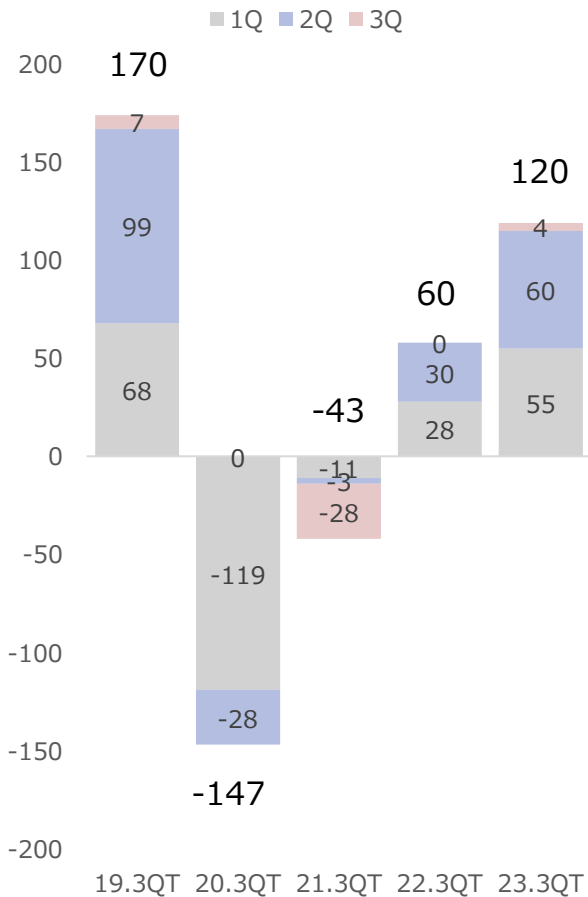
モール専門店売上

既存モール・エリア別 (%)	前年同期比	日本国内既存モール・業種別 (%)	前年同期比
日本	106.2	大型専門店	104.4
中国	124.7	衣料品	102.5
ベトナム	106.0	服飾品	105.1
カンボジア	89.9	雑貨	103.2
インドネシア ※2	121.6	飲食	112.4
		アミューズメント・シネマ	108.1
		サービス	116.0
		専門店小計	106.5

- ・商品調達先変更による原価低減、什器・備品のグループ共同仕入れなどでコスト低減
- ・MD構造改革が順調なジーフトやアセアンが過去最高益のイオンファンタジーが増益けん引

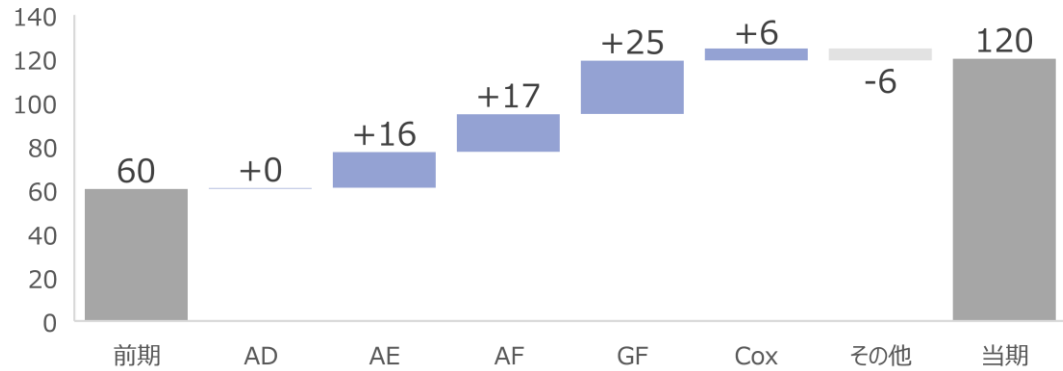
セグメント利益 ※1

(億円)

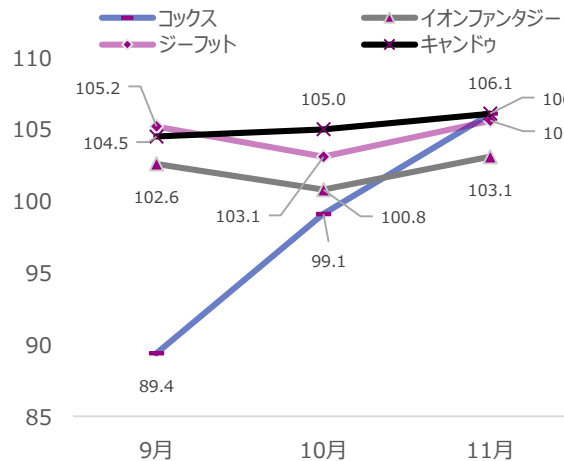


営業利益増減 ※2

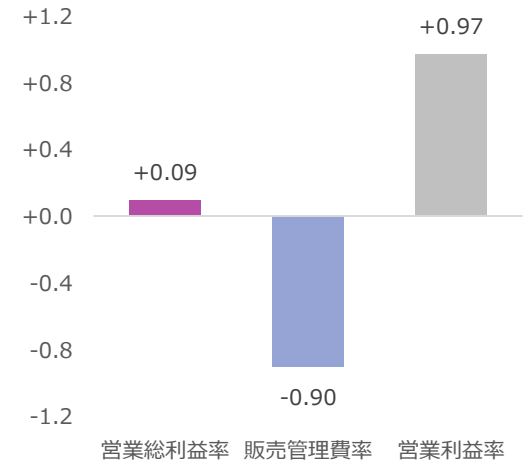
(億円)



主要上場企業の既存店売上前年比 (%)

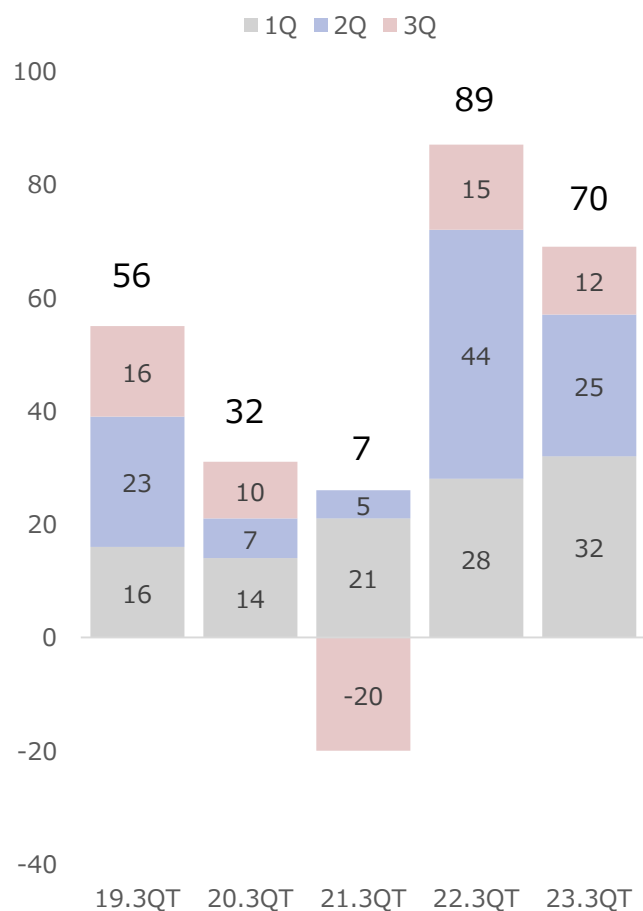


段階利益率・販管费率前年差 (%pt)

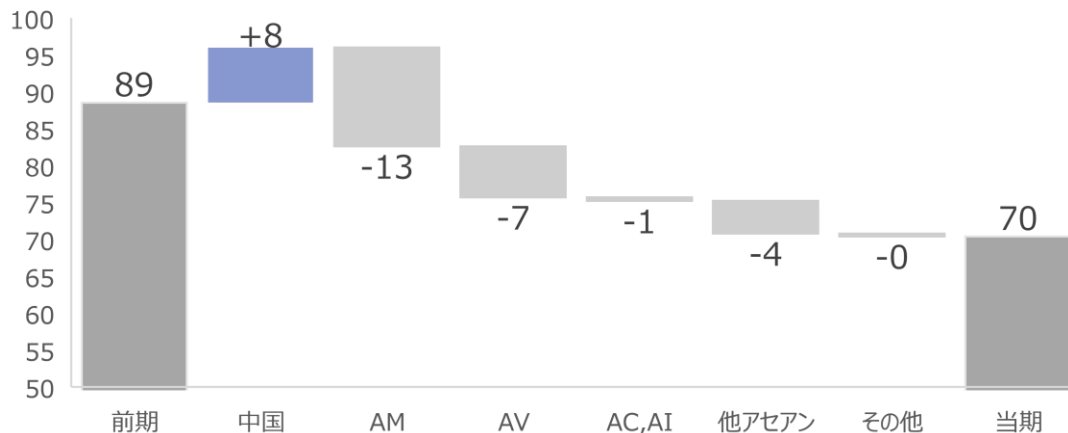


- ・アセアン：景気悪化で需要低迷がするマレーシア、ベトナムでは必需品の価格訴求で客数回復の兆し
- ・中国：地域差はあるもののゼロコロナ政策の解除により衣料品や食品の売上回復で増益

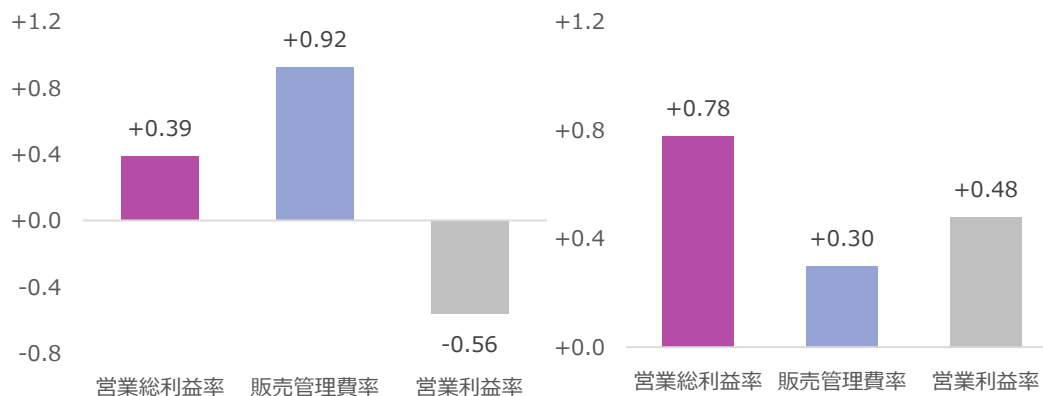
セグメント利益 (億円)



営業利益増減 ※1 (億円)



アセアン(左)・中国(右)段階利益・販管費率前年差 (%pt)



※1 中国:中国事業、AM:イオンマレーシア、AV:イオンベトナム、AC:イオンカンボジア、AI:イオンインドネシア、他アセアン:他のアセアン4社
 ※2 アセアン:イオンマレーシア、イオンビッグマレーシア、イオンタイランド、イオンベトナム、中国:イオン香港、イオン華東、青島イオン、
 広東イオン、北京イオン、イオン華南、イオン湖北、

	2023年度	第3四半期累計 実績
電気代 上昇	水光熱費への影響 前年差 +300億円 (年間)	<p>水光熱費 前年同期差 ▲29億円 (1Q : +60億円、2Q : ▲5億円、 3Q : ▲84億円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 創エネ・省エネの推進 ✓ 節電機器の前倒し導入 ✓ 新電力への契約切り替え ✓ グループ電力調達
賃金上昇	人件費への影響 前年差 +500億円 (年間)	<p>人件費 前年同期差 +404億円 (1Q : +110億円、2Q : +140億円、 3Q : +154億円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 人時生産性 前年同期比 106.5%※

2025年に向けた「5つの戦略」に関する TOPICS

こだわりの生鮮品から冷凍食品、日用品、医薬品まで
30,000点以上の品揃え!

最短
当日配送
可能

朝7時から
夜23時まで
1時間単位
でお届け!

初回～3回目まで
最大 **4,500円OFF**
+ 配送料無料
※ご利用条件あり

**鮮度
に自信!**

現在の配送可能エリア

東京都	新宿区・渋谷区・千代田区・ 中央区・品川区・港区・大田区・ 目黒区・世田谷区・江東区・ 江戸川区
千葉県	千葉市・船橋市・習志野市・ 市川市・浦安市・八千代市・ 四街道市・ 市原市（五井地区・国分寺台地区・ 市原地区・ちはら台地区・辰巳台地 区
神奈川県	川崎市



イオンの新しいオンラインマーケット
グリーンビーンズ公式アプリ

生鮮品から
日用品・医薬品まで
30,000
点以上

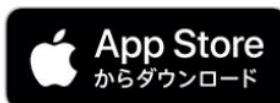
最短
当日配送

1時間単位で
お届け
朝7時～
夜23時まで

※画像はイメージです。※アプリ画面イメージは2023年11月現在のものです。

ダウンロードはこちら

iPhoneの方はこちら



Androidの方はこちら



サプライチェーン発想での独自価値の創造～トップバリュ



価格訴求

9月25日
厳選31品目
値下げ



11月6日
厳選31品目
増量



12月13日
値下げ第2弾
厳選29品目



価値訴求

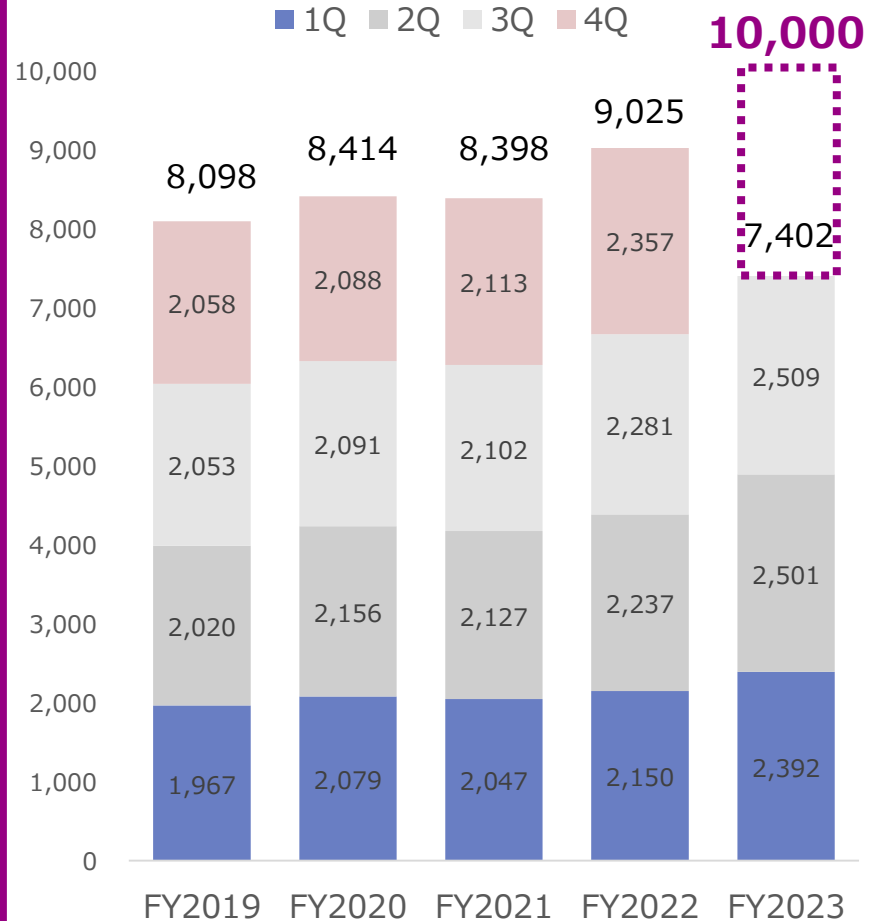
9月6日
お家で楽しむ
Café ごはん



9月26日
クラフト



売上 7,402億円 前年同期比 110.2%



グリーン戦略の推進～イオン脱炭素ビジョン



国内店舗使用電力の約55%を
再生可能エネルギーへ切り替え

2023年12月国内事業所での
再エネ調達量 3,706百万kWh

「イオン 脱炭素ビジョン」で掲げた
2030年までの中間目標を7年前倒しで達成

イオン 脱炭素ビジョン

イオンは3つの視点で温室効果ガス(以下CO₂等)排出削減に取り組み、
脱炭素社会の実現に貢献します。

店舗

店舗で排出するCO₂等を総量でゼロにします。

商品・物流

事業の過程で発生するCO₂等をゼロにする努力を続けます。

お客さまとともに

すべてのお客さまとともに、脱炭素社会の実現に努めます。

中間目標

2030年までに店舗使用電力の50%を再生可能エネルギーに切り替え
(国内)

達成手段の考え方

イオンのCO₂排出量の
約9割が電力由来

店舗使用電力の削減と
再エネ転換

省エネ

再エネ

AEON NEWS RELEASE



2023年12月31日
イオン株式会社

～「イオン脱炭素ビジョン」の中間目標への進捗について～

国内店舗使用電力の約55%を再生可能エネルギーへ切り替え

イオンは、地域全体での脱炭素社会の実現に向けて2018年に策定した「イオン 脱炭素ビジョン」に基づき、「店舗」「商品・物流」「お客さまとともに」の3つの視点で、店舗で排出するCO₂を総量でゼロにする取り組みを進めています。

使用電力量を減らしつつ、国内の店舗で使用している電力を再生可能エネルギー（以下、再エネ）に切り替えるべく、店舗の屋上や駐車場へ設置した太陽光パネルで発電した再エネを活用する「オンサイト太陽光」と、店舗敷地外の太陽光パネルで発電した再エネを活用する「オフサイト太陽光」の取り組みを拡大しています。

また、国の固定価格買取取り制度（FIT）の期間を終えた住宅の太陽光発電「卒FIT」電源や、電気自動車を紹介し、ご家庭の太陽光パネルで発電した余剰再エネをポイント交換し活用することにも積極的に取り組んでいるほか、エリアごとに適切なエネルギー調達手段を定めるなど、「エネルギーの地産地消」の考えのもと、再エネへの切り替えを進めています。

これらの取り組みにより、2023年12月にはイオンの国内事業所における再エネ調達量が3,706百万kWhに達しました。これにより、イオンが国内の店舗で使用している電力の約55%に相当することから、「イオン 脱炭素ビジョン」で掲げた2030年までの中間目標を7年前倒しで達成いたします。

イオンは、今後もすべての事業活動で持続可能性を追求し、地域全体での脱炭素化の実現に向け、全てのステークホルダーの皆さまとともに、取り組みを加速してまいります。

（ご参考）

●再エネ取り組み

オンサイトPPAモデルでは、屋上だけでなく駐車場を活用したソーラーカーポートを導入。これを含め、2023年度は累計でグループ全国1,383店舗へ太陽光発電設備を導入見込み。オフサイトPPAでは、遊休地等を活用し全国1,292カ所の発電所から全国の50SSCで再エネを調達。
※再エネ調達量55%は、再エネ指定の非化石証書を組み合わせて実現しています。



イオンモール豊川に設置したソーラーカーポート

●省エネ取り組み

照明のLED化、空調冷凍設備の高効率化等のハードの取り組み、運用改善等のソフトの取り組みにより、2022年度は前年比で約2%の電力使用量を削減。2023年度においても、省エネ設備のグループ統一的な一括購入等により積極的に省エネ投資を実施し、前年比で約3%の電力使用量を削減できる見込み。

以上

https://www.aeon.info/news/release_51602/

12月・年末年始の状況

12月度・年末年始の売上状況



・物価高による節約志向が継続する中、年末年始の年間最大商戦は概ね想定通りの進捗

同日既存店売上高前年比（売上速報 2024年1月11日時点）

(%)

事業 ※	12/1-12/31	12/23-12/25	12/26-12/31	1/1-1/2
	12月度	クリスマス	年末	初売り
GMS	100.6	104.8	100.5	103.1
SM	101.2	98.4	102.0	106.3
DS	103.0	103.7	102.8	104.4
ヘルス&ウエルネス	98.8	104.2	93.2	97.7
サービス	97.7	121.0	110.2	98.4
専門店	97.5	100.8	102.7	103.3
ディベロッパー	101.2	108.3	103.8	100.4
中国	100.1	123.7	103.9	76.8
アセアン	92.8	92.3	91.5	58.1

・営業収益から親会社株主に帰属する当期純利益までの段階利益の期初予想を修正

(億円,%)

	2022年度	2023年度				
	実績	修正予想			期初予想	
		予想	前年比・差	期初予想差	予想	前年比・差
営業収益	91,168	95,000	+4.2%	+1,000	94,000	+3.1%
営業利益	2,097	2,400	+303	+200	2,200	+103
経常利益	2,036	2,300	+264	+200	2,100	+64
親会社株主に 帰属する当期 純利益	213	330	+117	+80	250	+37

The AEON logo is centered on a white background. It consists of the word "AEON" in a bold, purple, sans-serif font. A purple, three-dimensional ring with a gradient from light to dark purple is positioned horizontally, passing through the middle of the letters 'E' and 'O'.

AEON

2023年11月末 連結貸借対照表



(億円)

資産の部 (主要項目のみ)	2023/2	2023/11	前期末差	負債・純資産の部 (主要項目のみ)	2023/2	2023/11	前期末差
現預金	13,097	9,216	-3,880	支払手形・買掛金	10,399	11,455	+1,056
受取手形・売掛金 (割賦売掛金含む)	18,777	21,283	+2,505	有利子負債 (金融子会社除く)	22,722	23,634	+912
たな卸資産	5,967	6,664	+697	有利子負債 (金融子会社)	12,109	13,644	+1,535
営業貸付金・銀行業 における貸出金	29,650	32,265	+2,614	銀行業における預金	43,922	44,760	+838
有形固定資産	33,014	34,642	+1,628	負債合計	103,712	109,311	+5,598
投資その他資産	10,022	10,814	+791	株主資本	9,084	8,941	-142
資産合計 (金融子会社除く)	123,415 (60,780)	130,104 (64,907)	+6,689 (+4,127)	純資産合計 (金融子会社除く)	19,702 (15,440)	20,793 (16,282)	+1,091 (+842)
				負債・純資産合計 (金融子会社除く)	123,415 (60,780)	130,104 (64,907)	+6,689 (+4,127)

・前年度水準の一株当たり36円の配当予想

	2022年度	2023年度 (当初予想に修正なし)
第2四半期末	普通配当 18円	普通配当 18円
期末	普通配当 18円	普通配当 18円
合計	普通配当 36円	普通配当 36円

ダイエー再編関連企業の2023年度第3四半期の実績



(億円,%)

事業	社名	営業収益		営業利益	
		実績	前年同期比	実績	前年同期差
GMS	イオンリテールストア ※関東、近畿、名古屋の 旧ダイエー-GMS	742	-4.3%	-24	6
SM	ダイエー	2,255	+4.5%	-17	+23

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はイオン株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。